

李永植（イ・ヨンシク）牧師と賀川豊彦の再会

河 映秀*

I. はじめに

2016年12月8日、韓国の慶山に位置する大邱大学校で惺山国際シンポジウムが開催された。

惺山は、この大邱大学校の創設者であるイ・ヨンシク牧師の号である。2014年には惺山生誕120周年を記念して、記念フォーラムが開催された。今回の惺山国際シンポジウムでは、大邱大学校建学理念の回顧と展望という大テーマを掲げ、賀川豊彦先生とイ・ヨンシク牧師の出会いを小テーマとして開催された。

大邱大学校は愛、光、自由という建学理念を掲げており、この概念は予ねて1946年に、大学の前身である盲啞理工学院を設立した当時に作成され、教育部に提出した設立趣旨にも明記されている。イ・ヨンシク牧師はハンセン病患者の保護施設であった愛楽園教会を辞任した後、咸鏡北道の城津中央教会、満州間島省明月区第一教会、日本横浜市打越町の朝鮮人教会で牧会を設ける際に韓国解放を迎え、解放後すぐに家族を連れ、第2の開拓者としての人生を生きるため大邱に戻った。その後、新しい社会奉仕事業として国家社会に寄与するため、盲啞者への教育施設の必要性を示唆し、同じ意を持った人たちと「盲学

校」の設立を構想した。その当時は、障害者に対する差別意識が根付き、社会福祉施設がほぼ皆無だった時代であり、このような構想自体が画期的な事であった。

彼は愛、光、自由を建学理念とし、障害者の保護と教育に一生を捧げることを決心した。彼の建学理念はどこから生まれたのだろうか。彼の主張する愛、光、自由はどのような意味を持っているのか。そのような疑問は大邱大学校の60周年の記念において、非常に意味深い。

つまり愛は東洋の惻隱の情に属する。他人への思いやりを意味する。光は行動である。福祉の理念を実践することである。自由は拘束を受けず、幸福な状態での帰結を意味する。我々がこのような社会的弱者を尊重出来ない状態では、真の福祉国家を実現することが出来ないだけでなく、真の幸福を達成することも不可能だ。

イ・ヨンシク牧師は、国家も障害者や貧困者など社会的弱者に対し援助が行き届かない時代に、人間愛を通し社会福祉という種をまいた先駆者であり、これらの努力があったからこそ韓国は先進福祉国家の敷居まで至ることができた。

本論文では、イ・ヨンシク牧師を具体的に探ってみようと思う。またそれに基づき、

* 中央学院大学社会システム研究所 客員教授
韓国：大邱大学校社会科学大学国際関係学科教授

賀川豊彦先生との遭遇がどのように結ばれているのか、またこれが大邱大学校の建学とどのような形で結ばれているのかの研究を始めようと思う。

II. イ・ヨンシク牧師はどんな人物なのか？

1. 学校法人栄光学院の設立

2016年、学校法人栄光学院が設立70周年を迎えた。大韓民国も解放70周年を迎えたので、学校法人栄光学院の歴史は大韓民国の歴史と共に歩んできたと言っても過言ではない。栄光学院の歴史は、学校法人の設立から韓国の高等教育の重大な変化を予告する。その大きな変化の本質がまさに愛、光、自由の建学理念に代弁される特殊教育の本格的な展開である。学校法人栄光学院の歴史は、韓国内の私立学校法人とは異なる。

韓国の浅い特殊教育の水準を高等教育の水準まで向上させるのに決定的に寄与した人物がまさに惺山イ・ヨンシク（1894～1981）である。学校法人栄光学院が設立されるまで、惺山イ・ヨンシク牧師の人生は、文字通り波乱万丈である。イ・ヨンシク牧師は1894年12月13日、慶尙北道星州郡金水面鳳頭里山奥で父親イ・スングと母親キム・ドクヒとの間に長男として生まれた。父親イ・スングは、イ・ヨンシク牧師が5歳の時に他界した。父親は家族に貧を残した。幼いイ・ヨンシク牧師は、日雇いの仕事をせざるを得ない状況だった。イ・ヨンシク牧師は後に、当時のことをこう回顧する。

私は5歳の時に木こりになり裏山を上下した。7歳の時から13歳までは木が茂っている伽倻山城の谷を一日に二回も上下した。時には焚き物を背負って三十里の山道を上下した。汗にぐっしょり濡れた息子を柴の戸の前

でお母さんが涙で迎えてくれた時が何度もあった。¹⁾

キリスト教の信仰に目を浮かびながら、新しい人生を生きるようにされたキム・ドクヒ女史は息子イ・ヨンシク牧師が司牧の道を歩くことを心より望む。少年イ・ヨンシク牧師も母親の信仰の影響で故郷の書堂をやめ、1908年9月に星州大家面玉化洞キリスト教系の小学校に入学し、昼耕夜読の日々を送った。キム・ドクヒ女史は天性が真面目だった。遠道もいとわなかった。夫が残した借金もほとんど完済した。キム・ドクヒ女史は二人の息子を故郷より大邱に連れて行こうと決心した。より大きな世界で二人の息子が成長できるのを願っていたわけである。イ・ヨンシク牧師はキム・ドクヒ女史、外祖母、弟を連れ洛東江を後にして大邱に居所を移す。

1913年4月イ・ヨンシク牧師は大邱啓聖学校に入学するために試験を受ける。イ・ヨンシク牧師は入学試験に合格するが、入学許可は得られなかった。貧困者だという理由で、学校側からイ・ヨンシク牧師の入学が不許となった。イ・ヨンシク牧師は諦めなかった。イ・ヨンシク牧師は故郷で洗礼を受けた宣教師ブ・ヘリ（傳海利）牧師を訪ねた。イ・ヨンシク牧師の事情を聞いたブ・ヘリ牧師は、啓聖学校のナ・ドレ（羅道來）校長にイ・ヨンシク牧師の身元と財政を保証するという手紙を送った。故郷のブ・ヘリ牧師がイ・ヨンシク牧師の財政的支援を引き受けた。おかげで、イ・ヨンシク牧師は19歳で啓聖学校勤労奨学生として追加選抜され、学習することができるようになった。イ・ヨンシク牧師は余程の意志の人物であった。

啓聖学校に入学したイ・ヨンシク牧師は苦学生の身分であった。勉強はもちろんのこと、運動場の整備、建物の新築のための基礎

工事も率先して参加した。年老いた祖母と弟の4人家族の生計をキム・ドクヒ女史が支えた。苦学生イ・ヨンシク牧師は余裕がなかった。イ・ヨンシク牧師は織り工場、靴下工場、日雇い、外国人の大邸宅の庭の掃除、市場の夜回り役など、手当たり次第仕事をこなした。啓聖学校3年生の時からは、西門教会ジョン・ジェスン牧師の配慮で夜の礼拝と青年会、学生会勉励礼拝を担当し、その報酬として学費の調達もした。さらに、西門教会鐘突きの宗旨までもこなした。²⁾

このように、青年イ・ヨンシク牧師の信仰は個人の救いにとどまらなかった。イ・ヨンシク牧師のビジョンは苦難の中の民族の救援にあった。彼の信仰は民族と共にする大きな信仰だった。彼の信仰はエジプトの抑圧を受けるイスラエル民族を救うという大胆な信仰だった。苦学生の身分であったイ・ヨンシク牧師だったが、独立運動にも力を入れた。1919年3月1日を期に、全国的に独立万歳運動が野火のように広がった。対価は手ごわかった。イ・ヨンシク牧師は万歳運動に加担したという理由で、ソウル西大門刑務所に6ヶ月間服役させられた。

ところが、今回もイ・ヨンシク牧師は簡単には諦めなかった。ソウルから始まり、水原、鳥致院、清州、公州、大田、常州、金泉と場所を転々とし、独立運動を広げた。しかし、日本警察に捕まれたイ・ヨンシク牧師は大邱刑務所で1年6ヶ月を服役した。ほぼ2年間服役したことになる。大邱地域の学生を代表して万歳運動を主導した首謀者として見なされた。ところが、イ・ヨンシク牧師にとっては、獄中生活がある意味で自己を振り返る良い時間になったと言う。刑務所での生活はイ・ヨンシク牧師という人間をさらに成長させた。服役中に強打を受け右耳の鼓膜が破れた。その時からほとんど聴力を失っ

て聴力障害者になってしまった。当時のイ・ヨンシク牧師の苦い経験が後々、盲啞など身体障害者を対象とする特殊教育に繋がる直接的な機会になった。³⁾

2. イ・ヨンシク牧師と賀川豊彦との出会い

イ・ヨンシク牧師は1922年7月に出所した。出所当時は28歳であった。2年間の服役後、7年ぶりに啓聖学校を卒業した。

そんな中、イ・ヨンシク牧師は1923年4月神戸神学校に入学する。神戸神学校での留学は、イ・ヨンシク牧師を司牧の道へと導いた。神戸神学校は、日本の著名な社会活動家であり、牧師である賀川豊彦の母校であった。そうして、賀川豊彦は日本の貧民層から尊敬を受ける人物として成長した。

幼い頃の賀川豊彦は孤独で病弱だった。そんな彼が神戸神学校を卒業し、貧民救済と伝道に興味を持つようになったのは、彼の師匠である長尾牧師の清貧と慈善に影響を受けたことが大きい。病弱な自分を支えてくれた長尾牧師に従い、神戸スラム街に入ることを決意した。彼は病弱な自分の面倒を見てくれた長尾牧師について神戸のスラム街に行こうと決心する。賀川豊彦の実践的な信仰をイ・ヨンシク牧師は知っていた。イ・ヨンシク牧師が後日帰国し、ハンセン病患者と苦楽を共にする実践的な信仰を目の当たりにした背景には、神戸神学校での体験があった。イ・ヨンシク大邱大学初代総長は、亡父と賀川豊彦の関係をこのように回顧している。

もう一つ、戦史に重要な影響を与えるのは韓国解放前のアメリカでは、20世紀アジアの聖者二人として、インドのガンジー、日本の賀川豊彦が認識されていた。この賀川先生は聖人です。また、古生物学者で、経済学者、社会事業家、牧師、文筆家、平和運動家であり、労働運動家だ。数多くの著書を執筆した、

英国のウェスレーは、18世紀末には約300冊近い宗教書籍を執筆した。彼が有名な神戸神学校の10年先輩であるため、おそらくイ・ヨンシツク牧師が彼を直接訪ねて食事などもしていた様子が伺える。牧師が亡くなるまで、視覚障害と聴覚障害を持った学生とライトハウスと呼ばれる寮のようであり、孤児院のような場所で生活を共にすることになった動機であることが知られている。私の母も、最終的には、ライトハウスで注射を受けたショックで突然亡くなったが、最後まであの孤児院、障害者のための孤児院を離れたがらなかった。その為、私たちも、あのような意思を受けて最期の日まではライトハウスでの生活を決心していたが、これは聖者賀川豊彦先生の神戸のスラム街での生活、神学生としてよく見学もし、その影響を大きく受けていたことが分かる。⁴⁾

このようにイ・ヨンシツク牧師のキリスト教の信仰は、日本神戸神学校への留学をきっかけに、さらに深まった。イ・ヨンシツク牧師は日本で聖者として尊敬されていた賀川豊彦先生との出会いで信仰人へと変貌を遂げた。イ・ヨンシツク牧師が障害者施設であるライトハウスで苦楽を共にした背景は、まさにここにある。イ・ヨンシツク牧師の神戸神学校への留学は、貧困者と共に行う実質的な信仰人としての起爆剤の役割をした。イ・ヨンシツク牧師は神戸神学校でより大きいキリスト教に出会い、より大きい信仰を知ることになる。彼は後日、学校法人栄光学院を設立し、障害者教育をこの地で最初に、本格的に始動した背景、そして大邱大学校が障害者の特殊教育の核心になった背景として、イ・ヨンシツク牧師の神戸神学校への留学が大きく関わっている。⁵⁾

3. 大邱大学校建学の理念の胎動

神戸神学校への留学時代、日本でのイ・ヨンシツク牧師の生活は貧しかった。身体的にも危険な状態であった。イ・ヨンシツク牧師は神戸市立病院で重症の栄養失調と診断され、長期間の入院を強いられた。しかし、幸いなことにイ・ヨンシツク牧師は母親の介護により回復し、無事に神戸神学校を卒業した。

帰国したイ・ヨンシツク牧師は1927年3月、大邱西門教会伝道師に就任して間もなく、牧師按手を受けた。啓聖学校で当時苦学生であったイ・ヨンシツク牧師に鐘突きの道を開いてくれた西門教会であった。鐘突きの苦学生が大邱の有名な西門教会の牧師になったことは、イ・ヨンシツク牧師にとって大きな名誉であった。しかし、イ・ヨンシツク牧師は喜びを表さなかった。理論的な説教と宗教的な実践との間で激しい葛藤を経験したからだ。イ・ヨンシツク牧師は説教にとどまる牧会活動ではなく、暗やみへ光をもたらす実践的な牧会を期待していた。あいにく外国で神学校を卒業した者は、平壤神学校で3ヶ月以上の政治と教理について講義しなければならないという朝鮮長老教会総会の規定に基づき、イ・ヨンシツク牧師は西門教会に籍を置き、1927年10月1日、平壤神学校に編入した。

1929年9月西門教会での事務を終えたイ・ヨンシツク牧師は10月、大邱愛楽園⁶⁾教会に赴任した。そして、ここで1936年までハンセン病患者を介護した。西門教会の牧師業、啓聖学校の牧師業など、社会的地位を必要としなかった。イ・ヨンシツク牧師は教会中心の信仰に懐疑を抱いた。ある日、イ・ヨンシツク牧師は愛楽園を経営する米国人の Fletcher (Archibald G. Fletcher) 園長を訪ねた。それからハンセン病患者への支援を求めた。イ・ヨンシツク牧師は、自身の信仰が自身にとどまることを願っていなかった。彼は自身

の信仰が社会的に広まることを願っていた。障害者など社会的弱者と苦楽を共にすることをいとわないイ・ヨンシク牧師であった。

愛楽園教会は米国人医療宣教師のアーチボルド・グレー・フレッチャー（Archibald G. Fletcher）博士が設立した。大邱愛楽園教会は1909年に大邱済衆院近くの宣教支部の敷地内に購入した一棟の藁屋が始まりだ。愛楽園が最初から教会を標榜したのではない。最初は収容施設であった。やがて1913年、フレッチャー園長が大英癩病者救療会から宣教支援金を受け、大邱愛楽園が設立された。

この愛楽園教会で7年もの間、ハンセン病患者と共にしたイ・ヨンシク牧師は自らの慈善で博愛主義と人道主義を実践した。イ・ヨンシク牧師は、慶北地域のハンセン病患者から称賛を一身に受けた。社会的栄光よりも障害者支援に全力を尽くしたと言える。

イ・ヨンシク牧師は愛楽園教会を離れ、1938年1月に咸鏡北道城津中央教会の牧師として赴任した。

しかし、この時期からイ・ヨンシク牧師の健康が悪化した。今まで自身よりも他者へ実践的な信仰を続け、歩んできた代償であろうか、徐々に悪化していった。イ・ヨンシク牧師はこれ以上城津中央教会の信徒たちに影響を及ぼす前に牧師業を退き、療養次満州山奥の明月区教会に拠点を移した。1941年9月のことだ。当時は、激動的な世界情勢だった。本格的に太平洋戦争が勃発した時期であった。⁷⁾

満州である程度回復したイ・ヨンシク牧師は1943年2月に、日本の横浜に到着する。横浜に到着したイ・ヨンシク牧師は朝鮮人教会で事務を行った。韓国解放の二年前、イ・ヨンシク牧師は再び日本に渡り、横浜の朝鮮人教会で奉仕する機会を得た。長男のイ・テヨンは東京明治学院中等部に、二男三男、

そして長女は石川中学校に入学させた。

ところが、イ・ヨンシク牧師を深い悲しみに陥れることが起こる。1943年12月26日、キム・ドクヒ女史が享年77歳で他界した。イ・ヨンシク牧師を愛で産み、育ててきたキム・ドクヒ女史が激動のど真ん中で目を瞑る。死を予感した母親は、イ・ヨンシク牧師と家族を集めて祈り、賛美した。それからイ・ヨンシク牧師に母親としての役割を十分に果たせなかった虚しさと偉大な牧師になることを期待することを告げ静かに目を閉じたそうだ。

帰国後、愛楽園教会で事務をしながらハンセン病患者の苦痛や障害者の実情を知ることになる。彼自身がハンセン病患者に寄り添い、苦楽を共にした経験は二度とない人生の分岐点になった。愛楽園教会と城津中央教会、中国明月区教会で牧会をしながら、青年のイ・ヨンシク牧師は徐々に民族と社会を透視する成熟したキリスト教の信者に成長した。イ・ヨンシク牧師は民族の未来を見通す牧会者であり、愛・光・自由の人生を実践した信仰人であった。当時の経験が後の学校法人栄光学院の設立に繋がった。

Ⅲ. イ・ヨンシク牧師の特殊教育事業

1. 光復後、私立の特殊教育機関の設立

韓国の特殊教育史を反芻すると、19世紀末にキリスト教宣教師らが韓国で伝道のための間接的手段として、教育事業と医療事業に力を注いだ結果、プロテスタンティズムの影響が韓国の新教育の発展に先導的な役割を果たした。キリスト教宣教師の伝道方針の一つも感動的な教育革命だと言わざるを得なく、特殊教育事業は、キリスト教的な博愛人道主義の精神を克明に表わしたと公的に評価された。よく知られているように、韓国のプロテスタ

ント歴史の中でプロテスタントの宣教政策が韓国史の全体を認識では取り上げられなかった点が、後日、大きな問題を残すことになった。

韓国人による最初の特殊学校設立は解放前の1935年であり、李昌鎬牧師が平壤光明盲啞学校を設立したが、現在、北朝鮮の特殊教育は、文献的痕跡を全く知ることができない。しかし、光復以後の1946年にイ・ヨンシツク牧師が大邱盲啞学院を設立し、障害児への教育はもちろん、1959年には、教員養成のための大学教育機関まで拡大させ、世界的に高い評価を受け、真の福祉社会を体現させた。イ・ヨンシツク牧師の特殊教育は、他の宣教師とは異なり、同民族である教育者としての魂が込められている。⁸⁾

1946年4月19日、祖国光復の記念事業として光復後、最初に設立された大邱盲啞学院設立は盲啞児童と聾児のための特殊学校である。大邱中央教会堂下層から盲啞児童2人、聾児10人で授業が始まった。開校以来、教師側の教育訓練不足により、障害児らの心性や人性問題が社会問題に浮上したため、第一教会、銅山教師、放送局、児童の家を周り、集団授業も行った。1949年2月大邱市太平路3の150番地、米国広報院に移転したが、1950年6月25日に無期休校措置され、その後1951年2月開学、1953年、米牧師エスデス大佐の支援を受け、大邱市大明洞2288番地に校舎を新築移転した。

キリスト教精神に基づき有能な人材を育成することを目的とされた。修業年限は6年で、入学試験に合格した者を許可した。一般的な科目のほか、盲啞学生には鍼灸、マッサージ及び聾児には木工、理容、製靴、洋裁、印刷などの科目があった。1949年1月惺山イ・ヨンシツク牧師を学長とした学校が国家に認められ、支援を受けるようになった。これは歴

史の中では珍しい異例として、イ・ヨンシツク牧師の貢献は多大なものであり、私立特殊学校の障害別専任教育機関の設立に先駆者的な役割を果たした。

知られているように、イ・ヨンシツク牧師は、キリスト教の精神と弘益人間の教育理念に立脚し、「大邱盲啞学院」の設立に拍車をかけており、すでにキリスト教の障害者の学校設立の意志があったが、大邱地域に盲啞学校が存在しなかったが、彼の精神と関連する要素が整っていたため、宗教界との関係の協力を得ることができた。1946年4月19日期成会創立総会を通じ、学校を設立し、翌年1947年4月9日に視覚障害者2人、聴覚障害者10人の構成で開校した。学校を開校したが、当然教育する場所がなく、大邱市太平路3の150番地の大邱中央教会を一時的に使用することに合意した。その後、大邱盲啞学院の院舎を大邱第一大教会堂内に移転後、1947年5月22日に慶尚北道知事から大邱盲啞学院の設立認可を受けた。

大邱第一教会でも6ヶ月が経たないうち、1947年9月1日に大邱市三徳洞に一時的に移転をした。数日後米国宣教会の助けで同年10月1日に大邱市大新洞にあるアダムス牧師の社宅を一時的に使用し、1949年2月5日に大邱市太平路3の150番地にある大邱市所有の建物を使用することができた。このように一ヶ所にも定着しないまま、巡礼の道を歩まなければならなかった。当時の劣悪な教育環境でも、障害者も尊厳な人格体であり堂々した社会人としてリハビリの人生を生きるために自分の人生を障害者の教育と学校の設立に全力を注いだ。

1950年に「韓国戦争」が勃発し、同年7月20日に休校令が下され、太平路の院舎も徴発令により国家憲兵が駐留することになり、厳しい教育環境の中でも一時的に他の校舎を使

用し授業を進めた。そのような状況にも拘らず後に多くの卒業生を輩出し、新入生を受け入れた。1951年7月26日に理事会を通じ学校名を「大邱盲啞学院」から「大邱盲啞学校」に改名した。さらに1953年4月13日には、大邱市大明洞墓地から約1万坪の贈与を受けた。1953年3月19日には、院舎新築起工式があり、院埜洞の一時院舎で視覚、聴覚障害児が集まり共に作業を行った。これを目撃し、感銘を受けた工兵部隊が直接支援を申し出た。1953年11月23日、今まであてもなく転々としていた院舎も共同墓地土台の上に建てられた木造の建物153坪の建物に移転し、正式に授業の場が設けられた。この日は感激の日であった。

大邱盲啞学院は1946年4月19日視覚・聴覚障害者（6歳以上の弱視の児童）を対象とする特殊教育で、イ・ヨンシク牧師と（慶北保健社会局のジョ・ヨンへ、ジュ・ビョンファン）によって、大邱中央教会を基盤に開校し、初代校長は、イ・ヨンシク牧師が就任し、教師には、パク・ヨンセンなどが就任した。国民教育と有能な人材を育成することを目的とした。修業年限は6年、入学の規定は6歳以上の男女で、入学試験に合格した者を許可した。科目は、一般的な科目のほか、職業教科目として盲啞部には鍼灸・マッサージ、聾児部には、木工、理容、製靴、洋裁、印刷などがあった。1951年には大邱盲啞学校が母体となって、教師養成機関である韓国社会事業大学が設立され、1959年3月には大邱盲啞学校を大邱光明学校、大邱英和学校に分離し、領域別担当教育をすることになった。

大邱盲啞学院が1959年大邱光明学校として分離認可を受けた後、1962年に中等科、1964年には、高等科の設立認可を受け、1965年には、保健社会部からマッサージ師養成学校に指定された。教育目標は、自主的学習能

力と自営自活能力であり、社会適応力を培養するのに必要な工作室、生活室を完備していた。そして、惺山イ・ヨンシク牧師が自宅として使用していたライトハウスが、地方で入学した学生たちの寄宿舎である「光明学士」で提供されているのはさらに意味深いことだと言える。

大邱盲啞学校の前身であった大邱英和学校が1959年に分離認可を受け、1964年に高等科設置した。教育目標は聴覚障害児に対して、知的、身体的、情緒的に正常的な発達を促し、すべての感覚能力を最大限に活用した教育システムを設けた。社会進出に必要な要素を養うべく、すべての感覚器官を活用したコミュニケーション能力の開発に教育方針を定めた。共同生活の秩序と言語を生活化する目的として、教科、特活、適応活動を行い、教育内容の特徴は進路指導や地域社会に関連する幼児難聴指導プログラムと保護者に対する教育に力を入れた。

1966年12月、学校法人栄光学院理事長惺山イ・ヨンシク牧師により、韓国初の独立した通学制肢体不自由学校である大邱保健学校が設立された。1973年に中等部と1980年に高等部、1988年に幼稚部のコースが設置されたと同時に身体機能改善のための治療と職業教育を実施し、自営自活が可能な健全な人材への復帰を目的とする。教育目標は健全な人間育成、健康な人間育成である。教育の内容は教育活動と職業指導に区分し、教育と機能の改善を通じ、個人的、社会的、職業的な適応能力の伸長を図っている。教育方針には、道徳教育の徹底、機能訓練の徹底、職業教育を重視して、心理面、機能面、学習面、職業面での教育の効果を期待した。

韓国で初設立された精神遅滞児のための大邱保明学校は、私立教育機関であり、1966年12月、学校法人栄光学院の根幹として設立認

可を受け、1967年4月に開校した。1973年2月中等部、1980年6月には高等部が設立された。教育目標は、自立生活、基礎教科学習能力、社会生活への適応能力、基礎作業能力、素質開発及び職業的の適応能力の育成だ。教育方針として、児童の状態を把握し、教育内容の選定及び指導の計画化、事例研究を通じ、教材教具の制作活用及び教育環境の改善、現場学習及び保護者への教育にも力を入れた。教育内容には幼・小・中・高等部の教育課程運営、能力本位の教育課程、個々の教育徹底、生涯教育基盤の造成に取り組んだ。

最近では、障害の状態が多様化し、重複化されている現実的な根拠が設けられており、単独類型学校で混合類型の学校の設立が要求されるが、それに応えて特殊教育の機会を広げて、地域社会の発展に寄与することを目的とした。そして特殊機関は特殊児童の障害特性を生かすだけでなく、地域的公平性も考慮して建立されているのが分かる。

大邱徳喜学校は、韓国初の情緒障害教育機関であり、1982年11月28日設立認可を受け、1983年3月に開校した。自主自立した社会人を育成することに目標を置き、教育内容は自立生活の社会適応能力、基礎教科、自己統制能力などで構成し、障害児童の個性と人格の完成のための治療教育を並行し自営自活できる健全な社会人の育成を目的とする。特に、運動能力を刺激することで認知能力の向上により情緒的な安定と治療支援のサービスを運営しており、学習準備機能、異常言語矯正、不適応行動の矯正、感覚通合、情緒安全など実生活に必要な要素を補うことに力を入れた。

惺山イ・ヨンシク牧師は障害児童の特殊教育だけでなく、早期教育の必要性を認識し、1979年に大邱大学校付設幼稚園を設立し、1987年に栄光幼稚園を設立して地域社会教育

に大きく貢献していた。

このような特殊教育機関の設立は、韓国の特殊教育の障害領域である盲、聾、肢体障害、知的障害、情緒障害領域の専門担当機関に分離育成させ、多くの特別な子供たちに特殊教育を通じた社会進出への機会を提供した。韓国は近代的特殊学校教育機関の形成時期が先進各国の学校設立の時期に比べると非常に遅いが、韓国の特殊教育の基底を調べてみると、初期の特殊教育はこのような歴史的評価を得られるだろう。

苦楽の過程を乗り越え、大邱大学校の設立に至った。世界の中で韓国人の役割を担う障害者のゆりかごとしての福祉国家建設の実践に特別な子供の増加による教員養成の必要性を削減し、1956年5月、韓国社会事業大学から認可を受け、現総合大学である大邱大学校の規模に発展することになった。大学の建学の精神は、高い人類愛の精神基盤の基に、真理と社会正義を実現し、人類共通の夢である万人の福祉を実装できる理論と実践を研究することにより、健全な人格を所有している知識人の専門知識を養成することにある。より高い大きな意味を、キリスト教の精神に立脚した「大きな志を抱け」を教訓とした大学教育は、人格陶冶を基にした学問研究にその旨を置いた。これから21世紀に向けた福祉社会の実現に主役として建学理念と教訓の意味を生かし、韓国人としての使命感を持ち、遂行しなければならないと語った。

IV. 結論

惺山イ・ヨンシク牧師は韓国社会事業の先駆者と言われる。イ・ヨンシク牧師を記念するシンポジウムを賀川豊彦との再会を念頭に置いて、これを共に眺望したのは大邱大学校の構成員を含め現代を生きている我々に

非常に意味が深い。

イ・ヨンシク牧師は慶北在住、貧しい家に生まれ、大邱啓聖学校、神戸神学校を卒業し、牧師になった。彼の生涯は、独立と宗教活動期、光復後の特殊教育と社会福祉事業、そして1970年以降の国際的な奉仕活動期に分けることができ、「愛、光、自由」を世に知らしめた人生の連続だと言える。惺山の生涯は、自力更生の信念、敬天愛人の信仰を共存共栄の理念とし、社会的に生活から保護を受けられないハンセン病患者と子供達のために「愛、光、自由」を具現しようとした。

惺山は真の教えに従い、正しい道へと導くことに宗教観を定め、宗教の真理は精神活動と生活哲学を正しく実践しようとする心を持つべきだと語った。

彼のキリスト教信仰は、民族運動から始まり、高い人類愛によって昇華された。このような惺山の理念は、「燐光主義・愛光主義」の実践的教育が土台となり、この精神は学校法人栄光学院の歴史に繋がった。そして惺山の価値観は人生に対する自己信条の表現で社会構成員の一人として何を、どのような仕事を、どのような行動をとるべきかを、多くの特殊教育と社会福祉に全力を尽くすことから人生の価値を見つけることができた。

惺山の特殊教育事業は、弘益理念と人間尊重に立脚し、特殊児童のために献身的に奉仕することで始まった大邱盲啞学院は、光復後設立された初の私立特殊学校機関である。惺山は特殊教育は人間の尊厳性に即すべきだと思い、特殊教育の向上のため、日々研究を重ね、必要な教育機関はもちろん、様々な特殊教育関連研究機関を設立し、多くの功績を残した。一般学校での教育が正立前、特殊児童に対する教育機関、教員養成の専門機関である大学と大学院を設置し、特殊教育関連の研究機関、研究会を設立し、韓国の特殊教育の発

展に大きく影響をもたらした。

惺山の社会教育と福祉事業は、教育的な側面に関連する研究機関の拡充発展と、社会的側面である大学教育機関の設立は、キリスト教思想を基にした人間尊重の思想から「愛、光、自由」の建学理念と「大きな志を抱け」という教訓は、適切な知性、心、神、徳性を養うためである。このような燐光主義・栄光主義の思想を基に、豊富で純粋な福祉社会を構築しようと自ら実践した。このような要因を背景にしてハンセン病患者の教会、宗教活動、障害者のための特殊教育、高齢者福祉教育、社会教育を中心とする学院を運営する教育者として、世界平和の実践者として生涯を過ごした。

大邱大学校はそのような惺山イ・ヨンシク牧師の崇高な精神に基づいて設立された。現在、韓国の私学の名門として頂点に達したのは、このような惺山の高貴な設立精神が原動力であった。その力の源は、おそらく賀川豊彦先生との運命的な出会いから起因したと思うのである。

[注]

- 1) イ・ヨンシク、「愛の道、素望の道」、大邱大学校出版部、1986
- 2) イ・ヨンシク、「愛の道、素望の道」、大邱大学校出版部、p.17
- 3) イ・ヨンシク、「愛の道、素望の道」、大邱大学校出版部、p.15
- 4) 『大邱大学校四十年史』*—1985年8月30日イ・テヨン初代総長回顧」、1998、P13
- 5) <http://blog.daum.net/leeyj1080/69>
- 6) 大邱愛楽園は国内の代表的なハンセン病患者保護施設である。1913年アメリカの宣教師アーチボルド・グレー・フレック

チャーが設立し、100年を超える歴史を誇る。現在、嶺南地域で最も規模が大きいハンセン病患者保護施設に成長した。

http://www.imaeil.com/sub_news/sub_news_view.php?news_id=14032&yy=2015

7) <http://100.daum.net/encyclopedia/view/14XXE0070735>

8) 特殊学校の卒業生の進路を開拓するために大学設立を計画したが、文教當局から人文科と特殊大学は許可ができなく、理工科であればできるという状況で理工科を設立しようとして都から学院認可を受けたのである。本理工科は盲啞人高等学校出身者の最高の失業教育を目的とし、希望する一般の人に限り入学の許可を受けられる。(1956年韓国理工学院長イ・ヨンシク、韓国理工学院理事長チェ・ジョン Chol 名義で書いた韓国理工学院認可の申請書の中)

<http://blog.daum.net/kimha5510/121>

The reunion of Lee and Kagawa after a century.

Prof YOUNG -SU HA
Dept of International Relations
Daegu. University

Abstract

Pastor Lee Young-Sik established Daegu university for the protection and education of the disabled. His life was for the disabled and the poor.

He met Kagawa at Kyoto Theological University and was impressed by his ideas and his poor relief efforts. He returned to Korea and devoted himself to social work in Korea.

At that time, Daegu University was established in Korea by Lee. The foundation philosophy of this university is love, light and freedom. These three spirits are formed in relation to Kagawa Toyohiko.

This year marks the 60th anniversary of the establishment of Daegu University. Pastor Lee Young-sik devoted his life to poor neighbors and disabled people. We living in modern times should remember his mind.

I want to analyze the spirit of love, light and freedom, which is the founding ideology of Daegu University. We must develop this ideology. The spirit of Kagawa Toyohiko and Lee Young Sik is a milestone for modern mankind.

I want to start the first step for new development about the spirits light, live, freedom.

And I wish I hope every korean people remember Lee and Kagawa include of their friendship.